

トルコ金融政策（2019年9月）

3.25%ポイントの利下げを実施

2019年9月13日

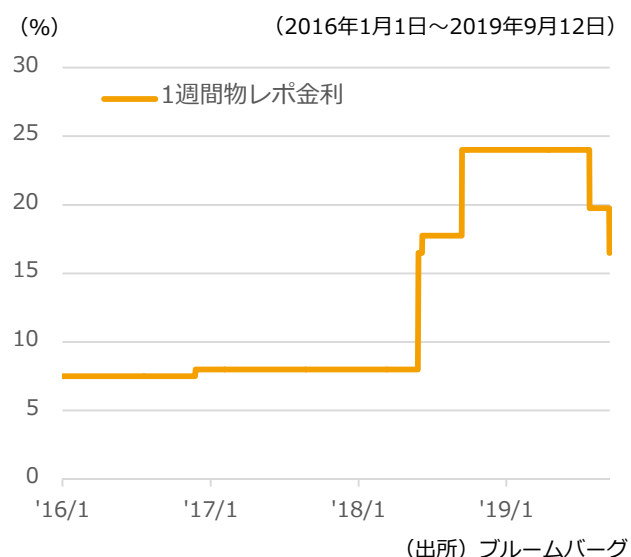
前回に続く大幅利下げも、市場には一定の安心感

トルコ中央銀行は9月12日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を19.75%から16.50%に、3.25%ポイント引き下げることと決定しました。大方の市場予想を上回る引き下げ幅となったものの、エルドアン大統領が政策金利を1桁台に引き下げべきと発言し中央銀行に圧力をかけていたほか、一部ではより大幅な利下げを予想する声もあっただけに、今回の決定は市場に一定の安心感をもたらしました。

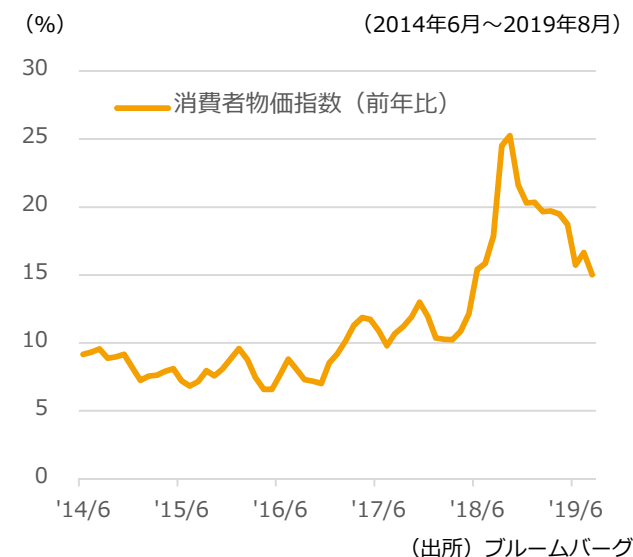
前回の会合から2回にわたってトルコ中央銀行が大幅な利下げを実施した背景には、インフレの鈍化が続いていることがあげられます。先日発表された8月のインフレ率は前年比15.01%となり、市場予想以上にインフレの低下が進んでいました。また、足元でトルコ・リラが安定して推移していたこともあり、トルコ中央銀行が追加利下げを実施する環境が整っていました。

一方で、トルコ中央銀行は年末のインフレ予想について、7月の予想をわずかに下回るとの考えを示し、今後は慎重な金融政策運営を示唆しました。今後もインフレの低下を確認しながら利下げの継続が見込まれるものの、従来よりは小幅な利下げになることが見込まれます。為替市場においては、トルコ中央銀行による適切なペースでの利下げは市場に安心感を与え、トルコ・リラを下支えすると考えています。また、依然として高い金利もトルコ・リラのサポート要因になるとみています。一方で、エルドアン大統領による過度な利下げ圧力やロシア製ミサイル購入をめぐる対米関係の悪化、国内でのクルド系住民との緊張など、政治的な不透明感の高まりには注意を払う必要があると考えています。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。